

国語教育相談室

中学校

no.

66

光村図書

特集

手紙を書こう

巻頭
エッセイ

機械翻訳で広がる
知の世界 長尾 真

教師力
講座

短歌の鑑賞文を
書こう

古典への
扉

義経はなぜ弓を拾うのか

書写

言語活動の充実を踏まえた
書写の授業開発

感謝の過去形

京都教育大学教授

森山卓郎 もりやま たくろう

暑い日、町へ出たときなど、コーヒーショップなどで涼をとりがてら、冷えたアイスコーヒーを飲むのが、わがささやかな贅沢である（ほんま、ささやかですな）。

そこで気づいたのが「ありがとうございませう」。あるコーヒー屋さんでは「ありがとうございました」と言わないで「ありがとうございます」と言うようにというマニュアルになっているらしい。私のゼミの学生がバイトをしている京都駅の食堂でも「ありがとうございました」ではなく「ありがとうございます」と言うように指示されているという。なんでも、「ありがとうございました」だと「過去」のこととして、お客様と「切れ」てしまう感じになるからだそう。いつも感謝しているということもあるかもしれない。

確かに過去を表す助動詞の「た」が

ある。だから「ありがとうございました」と言うのは一件落着いてからである。例えばコーヒーを飲みに来店したばかりの客に「ご来店、ありがとうございました」とはふつつ言わない。来店だけでは、用件が済んではないからである。

しかし、実は、「ありがとうございませう」は、済んだこととして表さない点で、少し軽い表現でもあるように思う。例えば、「あ、糸くずが付いてますよ」と、それを取ってもらったときなど、ふつつは「あ、ありがとうございませう」とか「すみません」とか言いそ。私の語感では、たかが糸くずで、「ありがとうございました」「すみませんでした」と言うときと大げさな感じがする。つまり、「ありがとうございませう」の場合、「感謝すべき事態があった」ということを認識する点で、

一定の「重み」があるのではないだろうか。例えば道を教えてもらった場合、「こっちだよ」という程度なら「ありがとうでございます」で済みそうだが、「わかりにくいから一緒に行ってあげよう」などと大変お世話になったとすれば、終わってから「本当にありがとうございました」などと過去形で言いたくなる。

こう考えると、「ありがとうございませう」は「関係が切れてしまうような水くさい挨拶」ではなく、むしろ「過去のこととして、特に認識したことを表す深い感謝」ということになる。本当に深い感謝を表すなら、件の接客マニュアルは見直すべきなのかもしれない。感謝にも過去形がある日本語は、深いのである。

今回も、最後まで読んでくださって、本当にありがとうございました！

CONTENTS

探検！言葉の森 15 感謝の過去形 ————— 森山卓郎

巻頭エッセイ
言葉と向き合う 02 機械翻訳で広がる知の世界 ————— 長尾 真

特集 04 手紙を書こう

手紙の教育力をめぐる三つの事例 ————— 藤森裕治

実践提案 ————— 新しい指導を考える会

- 1 目的や場面に応じた手紙を書く
- 2 作者に出会うために一兼好法師に「手紙」を書く―
- 3 「報告書を読む」手紙指導

教師力講座 13 14 短歌の鑑賞文を書こう ————— 甲斐利恵子

古典への扉 3 18 義経はなぜ弓を拾うのか ————— 東野泰子

書写指導の
可能性を探る 3 20 言語活動の充実を踏まえた書写の授業開発 ————— 戸田 真

機械翻訳で

広がる

知の世界

国立国会図書館長 長尾 真

私は長年機械翻訳の研究をやってきました。機械翻訳というのは、機械つまりコンピュータによって文章を他の言語の文章に翻訳する技術です。たとえば日本語で書かれた文章をコンピュータに与えると、同じ内容の英語の文章が出てくるようにするわけです。

機械翻訳には二、三の方式がありますが、基本的には原文の文法的な構造を明らかにして、それに対応する相手言語の文の構造を作り、そこから相手言語の文を作り出すのです。たとえば「私は本を買いました」という文の主語は「私」であり、「本」は目的語、「買う」は動詞で述語であると分析し、日本語の「主語＋目的語＋動詞」は英語では「主語＋動詞＋目的語」という構造に対応するから「I bought a book」となる、というようにするわけです。

文の構造を明らかにするためには、日本語と英語の文法体系をできるだけ正確に作ることが必要です。そして日本語のある構造が英語のある構造に

応するという、文法構造の対応関係を明確にしなければなりません。しかし言語表現は非常に複雑でまた自由なところがありますから、これらを完全に説明できる文法体系は、日本語でも英語でも作ることは至難のわざです。

文の構造は文法に支えられているとともに、意味によっても支えられています。川端康成が行ったノーベル賞受賞スピーチのタイトルは「美しい日本の私」というものでした。ここで美しいのは「日本」だと思われそうですが、ひょっとして「私」であるのかもしれないと話題になったことがあります。

川端はわざとどちらにもとれるあいまいな表現を企てたのかもしれませんが。

機械翻訳の立場からすると、明晰で一度読んだらすぐわかるといった文章を書くことが望まれます。「美しい着物の娘」だったらどうでしょう。もし娘が美しいことをはつきりさせたいならば、「着物の美しい娘」とか「着物姿の美しい娘」と書くべきでしょう。

長い文を書くのも考えものです。長い文の解析は機械が最も苦手とするところですが、人間にとっても理解しにくかったり、場合によっては間違った解釈をすることがあります。

この直前の文は一見何ら問題のない文に見えますが、「人間にとっても理解しにくかったり、（人間にとっても）場合によっては間違った解釈をするところがあります」という並列の構造だとすると、後半は文法的に少しおかしいものとなっていることがわかります。そこで文を区切って「人間にとっても理解しにくいものです。場合によっては人間も間違った解釈をすることがあ

ります」と主語を挿入すれば明確になるわけです。短い文を書くよう心がけていれば、このような気のつかない誤りは避けることができます。

過去半世紀近くの悪戦苦闘の結果、今日では日本語と英語の間の機械翻訳は、かなり良質の結果を出すところまで来ています。しかしこれも翻訳の対象となる原文が文学的なものでなく、あいまいで複雑な構造をした長い文でないことが必要です。ビジネスで用いる文章や種々の製品の取扱説明書などはこのような条件を満たすものが多いので、機械翻訳がよく用いられています。

日本語と韓国語の間の機械翻訳はかなりよくできます。それは日本語と韓国語の文の構造が非常に近いからだといわれています。文章表現はその背後にある文化や慣習に支えられています。が、日韓両国の文化や慣習には相似性が強くありますので、それも翻訳の質を高めるのに役立っているわけです。同じことがフランス語とイタリア語の

間の翻訳に言えます。両言語ともにラテン語が背景にあるからです。英語とフランス語は成り立ちが少し違いますが、文化的には近い関係にあることもあって、両言語間の機械翻訳の精度も高く、EUで実用しています。

国立国会図書館には膨大な図書・資料の蓄積があり、これは広く国民の利用に供されていますが、さらに世界各国の関心のある人たちにも使ってもらいたいと考えてきました。その手始めに同じ漢字文化圏に属す中国の国家図書館と韓国の国立中央図書館と協力し、機械翻訳を通じて図書・資料の相互利

長尾 真
なが まこと

1936年生まれ。国立国会図書館長。京都大学名誉教授、工学博士。京都大学総長、独立行政法人情報通信研究機構理事長を経て、2007年4月から現職。専門は自然言語処理、画像処理、パターン認識、電子図書館。主な著書に「わかる」とは何か」「電子図書館」「情報を読む力、学問する心」など。

用の道を開きました。日本語のキーワード（検索語）を入れると、これが中国語や韓国語のキーワードに変換されて、それぞれの図書館の図書・資料の検索をします。該当するものが出てくると、それを日本語に翻訳して提示するというシステムです。

日本語と中国語の間の翻訳の質はまだ良くありません。中国語は孤立語に属し、語形変化がないので、その構文解析が非常に難しいからです。しかし、これから何年もかけて解析の質を高めてゆけば実用にもってゆけるでしょう。日本語と英語の間の機械翻訳はまずまずですが、フランス語、ドイツ語、ロシア語、アラビア語、スワヒリ語などとの間の翻訳は将来の課題です。

いずれにしても、このような努力をすることにより、日本語の貴重な資料が広く外国に知られるようにすることにも、それらの国々の貴重な情報を日本でもよく利用できる環境を作ることが大切であると考えています。

66
特集

新しい学習指導要領の二年生「書くこと」の言語活動例に
「社会生活に必要な手紙を書くこと」が明示されました。国
際化や情報化の進展の中で、これからますます相手意識や目
的意識を重視したコミュニケーションが求められているこ
とを反映しています。

手紙を書くこう

本特集では、さまざまな実践事例を通して、「手紙」のもつ
学習素材としての魅力、言語活動そのものとしての多様な可
能性を探ります。

現代は、離れた相手との文字によるコミュニケーションは、
電子メールが主要な手段となっています。しかし、大切な人に
心を込めてゆっくり肉筆で書く「スロー・ライティング」の
良さも見直してもらえればと思います。

手紙の教育力をめぐる三つの事例

信州大学教育学部教授 藤森裕治

提言に代えて、「手紙」をめぐって私が
関わった事例を三つ紹介する。本誌の八
ページから紹介している三つの実践提案と
併せ、このメディアがもつ豊かな教育力を
感じていただければ幸いである。

電話か・手紙か

中高生の大半が携帯電話を所持する時
代が来ることなど夢想だにしなかった
一九九〇年代初頭のことである。私は、国
語教師として初めて勤務した高等学校で、
こんな論題の教室ディベートを盛んに行っ
ていた。

直接会えない相手に謝るには、
電話と手紙どちらがよいか

AかBかを排他的に選ばれる右の論題は、
命題の是非を検討すべきディベートに採用
してはならない。当時はそんなことも知ら
ずに、生徒が議論に熱中するのをまぶしく

観察していたものだった。

その中で、忘れられない思い出がある。

あの日、最初に立論を始めたのは電話派
だった。彼らは手紙が通信手段としていか
に不便で面倒くさくて時間がかかるもので
あるかを力説していた。手紙は、相手と直
接やりとりができなかったために、謝るとい
う行為が自己満足に終わってしまうというこ
とも付け加えた。高校生としてはなかなか
隙のない立論だった。

こうした批判を受けた手紙派は、多くの
場合、電話の弱点を指摘して対抗する。電
話は一過性で保存がきかず、互いの声を交
わすうちに感情的になってしまい、言った
言わないの陰湿な状況を招きかねない……
というのがよくある展開である。その日も
きつとそういう議論になるだろうと、私は
たかをくくっていた。

ところが、あの日の手紙派は、意外な立
論を始めた。電話派に対抗するどころか、
彼らの批判をすべて認めたのである。電話
派が言うように、手紙は書くのが面倒くさ

い。謝る言葉を選びあぐねて時間がたち、
せっかく書いても読み直してみると、気に
入らなくて破り捨てることもままある。郵
便ポストに投函しなければ届かないし、届
いたとて読んでもらえるか定かではない。
自己満足と言われればその通りである、と
この立論を聞いてあっけにとられたのは、
もちろん電話派である。

けれどもそういう反応を導くことこそ、
手紙派のねらいだった。彼らはこう続けた。

これほどデメリットの多い手紙を、
あえて使って謝ることの意味は何で
しょうか。それは誠意を表すことです。
手間ひまかかる上に、相手に読んでも
らえるかどうかもわからない。そんな
手紙は誠意の結晶なのです。人に謝る
ための通信手段を選ぶとき、僕らが最
も大事にすべきなのは、便利さや安さ
ではなく、どれだけ心を込められるか
です。

「自暴自棄」という四字熟語を思い浮かべていた聴衆は、この議論を聞いて「どんでん返し」という慣用句が上書きされたようだった。

字のないはがき

向田邦子「字のないはがき」は、中学二年の国語教科書にある味わい深いエッセイである。接続詞をほとんど使わない簡潔きわまる文体で読者の心をゆさぶる。「父」の手紙は「一点一画もおろそかにしない大ぶりの筆で」書きさされ、娘あてに「殿」を使う。手紙の本文は「折り目正しい時候のあいさつに始まり」、娘を「貴女^{あなた}」とよんでこまごまとしたことが記されている。「大酒を飲み、かんしゃくを起こして母や子供たちに手を上げる父の姿はどこにもなく、威厳と愛情にあふれた非の打ちどころのない父親がそこにあった」と述懐されている。

大学のゼミで、この作品と米倉斉加年「大人になれなかつた弟たちに……」とを引き比べ、「泣ける対決」と称して教材分析演習を行った。どちらの作品がより涙を誘うかという、いくぶん不謹慎な演習である。

に心ひかれ、どのような句を詠んでいるかに的を絞って読み進める。

この分担学習が進んだところで、「芭蕉はどのような思いで旅を続けていたのか」という問いが立てられ、グループで話し合って各自の理解を深めることになった。あるグループでは、有名な「夏草や……」の句が詠まれた直前で芭蕉が「泪を落としてはべりぬ」とあるが、これはどんな気持ちだったのだろうかという話題が話し合われた。「自然」の窓を担当していたAさんは「自然は変わらないのに人間はどんどん移り変わっていく、そのはかなさが哀しかったのでは」と言う。これに対して「古人」の窓を担当していたBくんからは「僕は、義経とか昔の人の心と一体になった気がしてうれしかったんじゃないかと思う」という意見が出された。

グループで結論を絞ることは強制されず、学習活動のシメは「これまでに読み取ったことを踏まえて、芭蕉さんに手紙を書こう」というものだった。こんな文章が記されている。

お元気ですか。江戸を出発して、平泉まできた今、何を感じていますか。

手紙を書こう

「字のないはがき」派からは、「泣けるツボ」として、やせ細って疎開から帰つてきた妹を抱いて男泣きする「父」の描写が紹介された。我が子に対する愛憐の情が堰を切り、「大人の男が声を立てて泣くのを」娘に目撃されてもかまわず慟哭^{どうくつ}する「父」。わずかに四文に託された「父」の表現に、ゼミ生一同、胸を打たれたそのときである。発表班の担当から意外な解説を聞かされた。

通常、ここに表象された父の心情は、娘に対する限らない愛情、優しさと解されます。それだけでしょうか。この作品の前半部分にあった、手紙の文面と日常生活の言動とで激しく異なる、父の印象の差に注目してください。私たちは、家族への不器用な愛情だけではなく、激しくなる戦時下、たった一人で一家を守らねばならなかつた父親自身の弱さ、自らのふがいなさに泣く姿を読み取ります。

父は「私」にも疎開した妹にも大量の手紙と葉書を渡している。離れて暮らす子どもたちのことが心配でならなかつたのだ。大量の手紙と葉書は、家族の生活と安全がすべて「父」にかかっているという重圧を

……最初は旅が好きで、人生のまとめとして出たけれど、今まで旅をしてきて、古人や自然、歴史をたくさん感じましたよね。古人を尊敬しているからこそ、旅に出て自然を感じてるのではないかなど私は考えました。……時の流れを考えると悲しくなるけれど、古人と自分が重なると思えるとうれしいでしょう。それがすべて芭蕉さんが目指す旅なんですよ。芭蕉さんの人生は、古人を感じられる人生がいい、だから古人を追う旅にしたんですね。残り少ない人生と思わず、元気にがんばってください。

暗喩する。この暗喩が父のむせび泣きにつながるという解釈だ。「日頃気恥ずかしくて演じられない父親を、手紙の中でやってみたのかもしれない」と「私」は推測するが、強そうに見えて実は弱い「父」のほんとうの姿が、手紙と葉書に映し出されていたのである。

旅人芭蕉さん

信州大学教育学部附属長野中学校では、平成二十三年度の公開研究会として「旅人芭蕉さん」と題した授業を行っている。松尾芭蕉「おくのほそ道」から、「門出」「白河」「壺の碑」「松島」「平泉」を取り上げ、芭蕉の人物像について考えてみようという大がかりな単元である。

学習活動はグループ学習を中核にして進めた。四人で一つのグループを作り、それぞれに「古人」「自然」「旅」「歴史」という観点を割り振り、これを「窓」と称して作品を捉える切り口とした。例えば「古人」を担当した生徒は、芭蕉が作品中でどのような古人に言及し、どのような思いを寄せているかに注目して通読する。「自然」を担当した生徒は、同じくどのような情景

手紙を書くという活動によって、「芭蕉の思い」を理解するという活動が、「芭蕉への思い」を表現する活動に変容している。

以上の事例において、手紙は実にさまざまな教育力を発揮している。「電話か・手紙か」では、メディアの特性を考える素材として、「字のないはがき」では、人物の心情を解釈するキーワードとして、そして「旅人芭蕉さん」では、実践提案2(P.10)と同様、古典を身近に感じる活動としてそれぞれ機能しているのである。

手紙には底知れぬ教育力がある。このことを再認識していただければ幸いである。

藤森裕治

長野県生まれ。東京都立高等学校教師を経て、現職。教育学博士。専門は国語科教育学（授業研究、日本民俗学。NHKラジオ高校講座講師。著書に『死と豊穡の民俗文化』（吉川弘文館）、『国語科授業研究の深層 予測不可能事象と授業システム』（東洋館出版社）など。



目的や場面に応じた手紙を書く

1 はじめに

新学習指導要領の二年生の言語活動例として「社会生活に必要な手紙を書くこと」が設定されたことを受け、目的や場面・相手に応じた手紙の書き方、自分の考えや心情を正しく相手に伝える力、敬語の使い方、手紙の書式、優れた手紙文を味わうことなど、「手紙」をテーマとした総合的な活動が重要となっている。

手紙を書く際には、伝える相手の立場や気持ちに配慮するとともに、伝えたい内容の中心を明確にして、言葉を選び、気持ちを込めて書くことが大切である。また、手紙を書く際に大きな役割を果たす敬語については、二年生では言葉の特徴やきまりに関する事項の中に「敬語の働きなどについて理解すること」、三年生では「敬語を社会生活の中で適切に使うこと」とある。本実践は二年生を対象に行ったものだが、今回は三年生の内容まで踏み込んで扱うこととした。

2 学習の流れ

(1) 育成を目指す言語能力・主たる評価規準

▼事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く能力
▼目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式を工夫して手紙を書く能力

言語についての知識・理解・技能	書く能力	国語への関心・意欲・態度
相手の意図や心情が相手に効果的に伝わるように手紙を書いている。 目的や場面・相手に応じて工夫して手紙を書いている。	事実や事柄、意見や心情が相手に効果的に伝わるように、説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書いている。	自分の意見や心情が相手に効果的に伝わるように手紙を書いている。 目的や場面・相手に応じて工夫して手紙を書いている。

(2) 学習計画(全4時間)

第1時	第2時
①単元の流れについて理解する。 ②手紙の書式について学ぶ。その際、手紙の書式のもつ意味について考える。 ③既習事項の敬語(尊敬語・謙譲語・丁寧語)について確認する。	四人グループを作り、各グループで次の四つの中から一つを分担して手紙を書く。 A 小学校六年生のときの担任に近況を知らせる手紙。 B 保護者に誕生日祝いをもったお礼の手紙。 C 転校した友達に近況報告をする手紙。 D 転校した友達に近況報告をするメール。

第3時

- ①グループごとに、書いた手紙を発表する。その際、次の三つの観点について説明する。
ア 目的や場面・相手に応じて敬語をどのように使ったか。
イ 内容をどのように工夫したか。
ウ その他、特徴的な点。
- ②A～Dの手紙について、目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式に違いがあることを学ぶ。

第4時

前時に学んだ「手紙は目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式に違いがあること」に気をつけて、実際に手紙を書き、先方に送る。
※便箋と封筒、切手を用意する。生徒には先方の住所と正確な氏名を調べておくように、事前に指示しておく。
その際、目的や場面・相手について生徒に決めさせる。決めかねて筆が進まない生徒には、第2時のA～Dの中から選ぶように支援する。

(3) 指導上の留意点

- ①A～Dの四つの事例について、目的や場面・相手に応じて書き分けさせる。
・手紙は目的や場面・相手に応じて必要な情報が異なる。

- ・特に時候の挨拶や敬語を適切に使うことによって、改まった表現や親しみやすい表現等になる。
- ②内容や表現等を工夫し、書き手の個性や気持ちが生きるようにさせる。

(4) 単元を終えての生徒の感想

手紙の書式のもつ意味についてはその素晴らしさに感動・納得する生徒もいたが、一部、疑問を感じる生徒もいた。手紙を自分の意見や心情を効果的に伝える有効なツールとして熟知させていきたい。敬語に関しては日常的に繰り返し指導していく必要がある。
・手紙の書式は長い時間をかけて作り上げられてきた日本の伝統であり、由緒があつてよい。
・時候の挨拶のあと安否を問うが、「ご清祥のこととお慶び申し上げます」というのは、本当にそうかどうかわからないのに、そのように言うのは少し無責任というか冷たい。
・手紙の書式にしたがって書く気持ちがあうまく伝えられてよい。反面、堅苦しい感じがして、相手によっては自分の気持ちがうまく伝えられないことがあるかもしれない。

3 おわりに

国際化・情報化の進展、また人間関係の希薄化、さらにはコミュニケーション能力向上の必要性等、今後ますます「手紙を書く力」や「事実や事柄、意見や心情を相手に効果的に伝えていく力」の育成が重要となってくる。
今回、試みとして四つの事例について手紙を書くことで「手紙は目的や場面・相手に応じて敬語や内容、書式に違いがあること」を学んだ。今後も手紙を書く機会を設けて、機に応じたセンスのよい手紙、さらには手紙だけではなく報告文、案内文等を書く力も育成していく必要がある。



手紙を書こう

作者に出会うために——兼好法師に「手紙」を書く——

1 はじめに

竹西寛子氏は、「作者に逢えるか」(月刊国語教育研究一九九五年二月号)で、「古典文学に限らないが、文学作品を読む時の私にいちばん大切なのは、作者に逢えるかどうかということである。」と述べ、そして、「自分の全知識と感受性を全開して作品を読み、たとえ一瞬にせよ作者に逢えた、と感じられたなら、その時から改めて、私のその作品への嬉しい親近や探索が始まるのである。作者が生きて私が生きている。私が生きている。作者が生きている。」と結んでいる。

この稿では、学習者が古典に興味をもち、全力で読み、作品に親近感をもち、作品に「愉しさ」を感じ取れる方法として、「作者に手紙を書く」を通して、作者に出会う「実践を紹介したい。」「作者への手紙」は、いわば作者との対話ともいえるよう。学習者が作者と向き合うのに適した方法だと思ふ。対象が古典であれば、時代を超えて変わらないものを見つたり、現代との違いを

感じたりと、主体的な読みが成立するのではないだろうか。

2 学習の流れ(全5時間)

第1・2時 「出会い①」	・ 作品や作者について解説。 ・ 二年「仁和寺にある法師」(第五十二段)の音読、口語訳を完成させる。 ・ この段の作者の思いを想像し、感想をもつ。
第3時 「出会い②」	・ 徒然草の他の段の口語訳を読む。(簡単な感想メモをとりながら)
第4時 「手紙を書く」	・ 読み取った段の中から二つの段を選び、作者・兼好法師に手紙を書く。(ワークシートに書き込む)
第5時 「交流」	・ 班で手紙を読み合う。 ・ 班の代表を決めて、みんなの前で発表する。

▼生徒に紹介した段

- ①「神無月のころ」(第十二段)
- ②「同じ心ならむ人」(第十二段)
- ③「いづくにもあれ」(第十五段)
- ④「名を聞くより」(第七十二段)
- ⑤「何事も入り立たぬ」(第七十九段)
- ⑥「ある人、弓射ること」(第九十二段)
- ⑦「高名の木登り」(第九九段)
- ⑧「双六の上手」(第一百十段)
- ⑨「友とするにわるきもの」(第一百十七段)
- ⑩「丹波に出雲といふ所」(第二百三十六段)

▼選んだ視点

- ・ 今も昔も人間の思い、弱点は同じなんだなと共感できる内容
- ・ 中学生の興味・関心に合わせ、読み取りやすい内容
- ・ 類似的経験を思い起こせる内容

▼使用したテキスト

『徒然草』(角川ソフィア文庫)

この本は、原文や通釈のほかに、テーマを示す見出しや解説、寸評が付いている。総ルビで、資料や挿絵も豊富で理解しやすい。

く、興味をもつて読める。

▼口語訳を読むときに

- ・ 内容を忘れないように、読ませるテキ

ストの段ごと、訳者のコメントの脇に、小さなメモ欄(私もひとこと)を設けておき、自分のつぶやきや、同じよう

な体験がなかったかを思い出させて書かせる。

3 おわりに

班で「手紙」を見せ合う姿は生き生きとしていた。手紙を読み、兼好法師のものの考え方がよくわかるとともに、手紙の書き手(生徒)どうしについて新たな発見があったという感想が多かった。

作者に「手紙」を書かせることで見えてくるものは想像以上に大きいようだ。まさに新学習指導要領二年「ア 伝統的な言語文化に関する事項」の「(イ) 古典に表れたものの見方や考え方に触れ、登場人物や作者の思いなどを想像すること」が、そのままの形で実践できたことを実感した。

また、作品や作者を身近に感じるだけでなく、自分の体験と比較させ、関連させながら「生き方」について考えさせるきっかけもできたのではないと思う。

今回は口語訳を読みながらの学習となったが、今後の課題として、原文にもっと触れさせ、古文の文体の特徴や魅力に気づかせることにも取り組んでいきたい。

評書 兼好法師様

徒然草の中、心で描いたの(第十一)段の

「ああいふ家たはあはれ心してゐると、奥にあ、たがねの木の周りに飯を喰ひ廻りあつて、いへんに顔がめしてゐた。」

という(言葉)です。

なぜかという、せ、かく趣がある空間なのに、固いがあることによつて、人間の顔が見え、てしまふのはやはり残念だと思つたからで、例えば、観光地などで古い町並を存、いせたり博物館で素直らしいものがあつても、そばに、手を触れなくていい、さじ、という、れが、たりしたう、なんだか、顔がめしてしまふ、それは仕方ないことですが、わが、の、れを立て、なぐても大丈夫なのは、なあと、思つてしまひますよ、ね。

また、(十一)段の

人の名前をきき、その時想像したおまけと、実際の顔が違ふ、なり、物語の登場、人物を知りあひてゐては、めしてゐたり、いろいろなこと、言ひたふことがあつた、と、なり

というところ(言葉)にも関心を持ちました。

それは、私もよくもう、このことがあるから、名前だけ聞いて想像した顔と、実際の顔が違ふ、たり、本と読む時、し、顔が、ない場合は、知っている人にあつては、めしてゐたり、な、じ、さうだなあ、と共感できます。また、これだけ、さう、という、言葉、の、聞、い、か、この段を、面白くさせていると、思ひました。

このように考えを持つ

兼好法師様は

見逃してしまひがちなことに、的確に、発見を、いう、方ですね。

敬具

▲ワークシート

「報告書を読む」手紙指導

1 はじめに

中学校で手紙を扱うケースは、①国語の時間で形式を中心にした指導、②特別活動や総合的な学習の時間で職場体験等のお札などを書く指導と、大きく二つがある。

これらの授業が終わった後、「手紙をたくさん書きたくまりました」「手紙を書くって楽しいですね」という感想が多く出れば出るほど教師冥利に尽きるが、なかなかそうはいかない。実際は、「形や決まりがたぐさんあって、覚えるのが大変」「自分の書きたいように書いたほうが、思いが伝わる」などの感想が多かった。挙句の果てに「メールのほうが楽でいい」である。

この原因の一つは、自分の思いをどのような言葉で、どのように表現するかという「内容」の指導よりも、「形式」の指導に重点を置きすぎていたことである。

もう一つの原因は、興味・関心のもてる教材を生徒に提示してこなかったことである。教科書や国語便覧の例を参考にしながら

ら書くのだが、形式や主な内容を参考にする姿は見られても、「なぜ、この表現を使っているのだろう」「なるほど、この表現のほうが相手に伝わる」と考えながら、注意深く読む姿は見られないのが現状である。

2 指導の実際

今回は、二年生で「読むこと」を中心に据えた手紙指導を実践した。教材として用いたのは、おまけ付菓子におまけが付いていなかったという苦情に対して、二社の製菓会社で作成した「報告書」で、たまたま筆者が入手したもの。これを教材として用いたのは、この「報告書」が、正式な形式で書かれた本物の文書であり、しかも、相手意識や目的意識が明確な文書だからである。生徒にとって、おまけ付菓子は身近な存在であるので興味をもちながら読み進めることができる。

これらの要素を含んだ二社の「報告書」

3 おわりに

「次の時間は手紙の授業です」と言ったとき、「えー」という反応が返ってきた。そして、二時間の授業を終え、「これで手紙の授業を終わります」と言ったとき、また「えー」という反応があった。「手紙を書きたくなくなったのに、書かないで終わ

りなの?」「苦情を受けたつもりで報告書を書いてみたい」「相手が喜んでくれる手紙を書きたい」などという反応があったのはうれしい限りである。

生徒にとって興味・関心のもてる内容の報告書。それゆえ、二社の報告書を比較しながら、表現の細部まで読むことができた。あえて書く指導を省いたことで、かえって生徒の意欲も湧いたようだ。

の内容や表現の仕方を比較することで、評価しながら内容を読み取ることができるようになり、教科書や国語便覧に載っている「手紙の例」と比較することで、表現の特徴や表現の仕方を理解することができるようになると考えた。

■指導の流れと留意点・生徒の反応

第1時

- ①報告書の意味と内容を理解する。
 - ・不具合が生じた原因や、今後の対策等を読み手にわかりやすく説明する手紙。
 - ・会社の信用問題に関わるため、細心の注意で、言葉を選んで書かれる。
- ②それぞれの報告書を読み、感想を書く。
 - 【A社】
 - ・専門用語や難しい語句が多く、読み手にとってわかりやすい文書とは言えない。
 - ・項目別に書いてあるのでわかりやすい。
 - 【B社】
 - ・平易な文章で書かれており、子どもにもわかりやすい。

第2時

- ①二社を比較して気がついたことを書く。
 - ・謝罪文なのだから、ある程度の堅苦しさは必要。B社のように、口語体に近い文章は好ましくない。
 - ・B社は、「こちら側に原因はなかった」と言っているように感じられる。
 - ・お客様相談センターよりも、工場の方が書いた文書のほうが気持ちの人が直接謝っている感じがする。
- ②教科書や国語便覧の手紙例と比較しながら気づいたことをまとめる。
 - ・普通の手紙には時候の挨拶があるのに、これらの報告書にはないのはなぜか。
 - ・報告書に時候の挨拶を書くのは失礼にあたるのではないか。
 - ・そもそも時候の挨拶は、親しい間柄で使われるのではないか。
 - ・相手や書く内容によって、書き方を変える必要があると思った。
 - ・手紙や報告書の他にも特徴のある文書の書き方があるのか知りたくなった。

報告書

平成〇年〇月〇日
株式会社〇〇〇 〇〇工場
生産技術担当課長

拝啓

平素より〇〇製品をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
この度は、弊社製品「〇〇〇〇〇〇」におきまして、大変ご迷惑をお掛け致しました。誠に申し訳なく深くお詫び申し上げます。
日頃から、品質第一に業務を進めて参りましたが、今回の様なご指摘を頂きまして、工場関係者一同、深く反省致している次第でございます。
就きましては、下記の通りご報告申し上げます。

敬具

記

- ご指摘内容
製品名：〇〇〇〇〇〇
製造日：平成〇年〇月〇日
内 容：シールが入っていないかった
- 発生原因
当該製品は生地を焼板に定量充填後、オーブンで焼き上げたウェハースにアーモンドとチョコレートを塗布し、2枚に合わせて冷却致します。その後カッターで切断、

【B社】

平成〇年〇月〇日
〇〇株式会社
お客様相談センター

拝啓 いつも商品をご愛用いただきまして、まことにありがとうございます。

このたびは弊社商品「〇〇〇〇〇〇」をせっかくお買い求めいただきましたにもかかわらず、カードの欠品にてご迷惑をおかけいたしましたことを深くお詫び申し上げます。また、ご報告までにお時間をいただきましたことを重ねてお詫び申し上げます。

さっそくですが、カード欠品につきまして、調査結果のご報告をさせていただきます。本商品は、カード欠品及びグミの充填不足を防ぐため、商品梱包後にウエイトチェッカーによる重量全数チェック工程にて、重量の過不足品の排除を行っております。今回お送りいただきましたグミの重量を測定したところ規定の分量でございました。カード欠品商品であれば、本来排除されるべき商品でございますので、当日の作業に問題が発生していないか、ロット番号より作業日報を確認いたしました。作業当日は、ウエイトチェッカーの始業時、午後開始時、終了時に動作確認を行っており、作業中にもトラブルの発生はなく、欠品の原因を追究することができませんでした。

しかしながら、〇〇〇〇〇様のお手元にこのような商品が渡ってしまった事実を真摯に受けとめ、更なる品質管理の徹底を行う所存でございます。

今後におきましても、お客様に安心してお買い求めいただける商品づくりに努めてまいりますので、引き続き商品をご愛用くださいますとともに、お気づ

◀手紙の全文は、光村図書のホームページから参照できます。
<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/soudan/houkokusho.html/>

短歌の鑑賞文を書く

東京都港区立赤坂中学校教諭
甲斐利恵子

先日、短歌の単元で鑑賞文を書くという学習をしました。

鑑賞文を書くためには短歌自体を理解していなくては書けないだろうと思い、一つ一つの短歌について解説を加え、まとめました。

解説が終わって「鑑賞文を書きましよう」と言ったら、子どもたちは「えっ、まだやるの」とうんざりした様子。でき上がった鑑賞文も今ひとつで、解説がほとんど生かされておらず、がっかりしました。どうしたら意欲をもって取り組ませることができ、自分なりの鑑賞文が書けるようになるでしょうか。



A

「短歌を鑑賞する」ということ自体、子どもたちには少々難しく、骨が折れることかもしれませんね。それに加えて「鑑賞文を書く」ことも加わるのですから、子どもたちには相当きつかったのかもしれませんが、「短歌の鑑賞文を書く」という学習活動には、

- ① 短歌を理解すること
- ② 短歌を鑑賞すること
- ③ 鑑賞したことを表現すること



の三つが重なっていることを教師が自覚しなければなりません。

どれも完璧にやろうとして、欲張りすぎた目標を立ててしまうと子どもたちには負担感が強くなり、やらされているという感じを抱いてしまうでしょう。

今回は、「鑑賞したことを表現する（書く）」ということに重きを置いた場合の授業例を紹介します。

「鑑賞文」って何？

「鑑賞文とは何ですか」と聞かれたら、私は「その作品の『よさ』を語ったもの」と答えています。

私たちは、書籍でも、映画でも、絵画でも、いいものに出会ったとき、それを誰かに伝えたいくなるものです。そう考えると、鑑賞文は、まさにその「よさ」を実感できた人が、その魅力をわかりやすく伝える文章だといつことが理解できます。

しかし、「すばらしい」「よかった」「感動した」という言葉だけでは、相手に自分が感じた「よさ」を伝えることはなかなかできないものです。いい映画を見た後、どんなことを私たちは言っているのでしょうか。私たちはとにかくかっこいい。主人公がとにかくかっこいい。相手役の〇〇もいい味を出している。

- ・ストーリー展開がすばらしい。どことききはらはらの連続。
- ・背景の美しさは何とも言えない。光るせりふがいっぱいあるんだよね。

ね。
泣ける。
演技がうまい。
音楽が本当によかった。
このような発言から、映画のよさを語るには特有の観点があることがわかります。

【映画を語る観点】

- ・主人公の人物設定
- ・俳優の魅力
- ・ストーリー展開
- ・背景となる風景
- ・せりふ

このようなことから、それぞれのジャンル特有の「鑑賞の言葉（語彙）」を使って表現することによって「鑑賞文」はでき上がると考えました。

- ・場面設定
- ・演技力
- ・音楽
- ・その他

学習の流れ

単元 「短歌の世界」 鑑賞文を書く

第1・2時

- 一、現代短歌の基礎知識
 - ① 聞き取りメモ・まとめ
 - ② 友達のメモから学ぶ

二、暗唱合格シート

- ▶ 教科書を読む
- ▶ 暗唱タイム

第3・4時

三、短歌を読む

- ① 学習ノート作成（製本）
- ② 資料集を読む

第5・6時

四、作品鑑賞会

- ① 話し合う作品を決める（第三希望まで）
- ② グループ作り（三人～四人）
- ③ 作品鑑賞会
 - 【話し合いのテーマ】
 - ・ どのような情景か
 - ・ 作者の心情は
 - ・ 作品のよさはどこか

五、鑑賞会のまとめ

第7時

六、鑑賞文を書く

- ① 下書き
- ② 清書（二百字）

第8時

七、鑑賞文を読む

- ① 友達の鑑賞文を読む
- ② まとめ（あとがき）・講評・学習のふりかえり

目標

- 短歌についての知識を獲得し、短歌を解釈するための情報を得て、まとめる。
- テーマに沿って深めるための話し合いをする。（意見を重ねていく力）
- 鑑賞文を書く。



鑑賞文を書く

なる書房

作品のよさの部分で盛り上がりたり。

鑑賞文の条件として次のことを設

- ・ 内容は話し合いを参考に
情景・心情・作品の魅力に
ついて書くこと。
- ・ 二～三段落で書く。
- ・ 最初の段落で作品の解釈
(解説・説明)を書く。

書く。

▲聞き取ったことをまとめたメモ

④「学習ノート」を作って作品をコンパクトに理解するという時間をとりました。

①聞き取りメモ

知識を伝えるときには、短時間でできる「マシニングトーク※」タイムを取っています。子どもたちは、現代短歌の基礎知識について聞き取り、すぐにそれをまとめていきます。十五分くらいかりました。何人かの子どもたちがまとめたものを印刷

② 暗唱タイム

意味がはっきり分からなくても「読書百遍意自ずから通ず」です。暗唱しながら言葉の美しさや語感のようなものに気づき、短歌を鑑賞するときの観点にも近づいてほしいと

考えました。

③ 作品の簡単な解説資料

教科書掲載の短歌をはじめ、いく

つかの短歌について簡単にわかりやすい解説の資料を用意しました。今回は次の二冊を参考にして作成しました。

生徒の書いた鑑賞文は、まだまだのものが多のですが、自分で選び自分で書きたいと思って書いている様子がうかがえます。新しい試みでしたが手応えのある学習でした。

「寒いね」と話しかければ「寒いね」と答える人のいるあたたかや

▼生徒の書いた鑑賞文

義経はなぜ弓を拾うのか

神戸女学院大学非常勤講師 東野泰子 ひがしの やすこ

一 弓矢の名手

現代の我々が使うことばに「矢継ぎ早」というのがある。難しいことばではないので、ふだんは深く考えずに使っているが、これは文字通り「矢を次々に素早くつがえる」ということで、そもそもは軍記物語に見られる表現である。

競はもとよりすぐれたるつよ弓・精兵、矢つぎばやの手きき、大ぢからの剛の物、「廿四さいたる矢でまづ廿四人は射殺されなんぞ。おとなせそ」とて、向ふ物こそなかりけれ。

（平家物語四・競）

渡辺（源）競は以仁王を奉じて挙兵した源頼政の郎党である。強弓（強く張った弓を引けること）のうえ、矢継ぎ早に射ることができ、二十四本の矢で、きつと二十四人を射てしまうという。「矢継ぎ早」という表現から、マシガンのような

うに次々と放たれる矢が目に見えかぶ。

渡辺競は速射の名人だが、軍記物語には様々なタイプの弓矢の名人が描かれている。なかでも有名なのは、頼朝・義経の叔父にあたる源為朝であろう。

其長七尺ばかり也。生付きたる弓取なれば、矢つか、ゆんでのかるな四寸まさりて長し。是によりて矢つかを引事十八束、弓の長は八尺五寸、ふとさはなが持枋の如し。

（保元物語上・新院御所各門々固メノ事）

身長が七尺（約二メートル）、右腕より左腕が長く、十八束（約一二メートル）の長さの矢を引くことができた。矢の長さの標準は十二束（約八十四センチ）であるから、一・五倍である。用いる弓も八尺五寸（約二・五メートル）の長さで枋（長持ちのかつぎ棒）のように太いというから恐ろしい。その一矢で鎧武者二人を射通したという。これがどの程度史実を反映しているのかわからないが、保

二 小兵であった与一と義経

弓矢の名手は、おおむね為朝のように怪力の大男として描かれる。いっぽう、那須与一は小兵（小柄）であった。

小兵といふぢやう、十二束三伏、弓は強し。

（平家物語十一・那須与一）

強弓ではあっても小柄なため、用いる矢の長さは標準的で、競や為朝のような屈強なものではない。しかし「扇の的」の場面が必要とされたのは一発必中の的中力である。与一は飛ぶ鳥を狙って「三に二は必ず射落とす」腕前であった。また、沖に平家、陸に源氏が対峙するなかでの最初の一矢は、勝敗の行方を占う神聖な意味合いをもっていた。勇猛

な武将ではなく、二十歳ばかりとまだ若く、小柄な与一がこの役目を担うことで、場面の神聖さと悲壮さが強調されている。

源義経もまた小柄であり、しかも強弓ではなかった。そのことは「弓流」の段によつて、平家物語読者には明らかにになる。けれども、当時、平家方の武士たちが義経の体格・容貌をよく知らなかったことに注意しなければならない。壇浦合戦のおり、平家方で義経の容貌を知る武者が、「義経は色白で背が小さく、前歯が出てゐる」と味方に説明して、義経を探させている。また平教経も、立派な鎧甲を目印に義経を探している。メディアの無い当時は敵の体格・容貌を知るすべなどなかったのである。

義経が弓といはば、二人しても張り、もしは三人しても張り、叔父の為朝が弓のやうならば、わざとも落として取らすべし。庭弱たる弓を、敵の取り持つて、「これこそ源氏の大将九郎義経が弓よ。」とて、嘲嗟せんずるが口惜しければ、命にかへて取るぞかし。

（平家物語十一・弓流）

三 装束描写の重要性

義経の弓が敵の手に渡れば、源氏軍の大将が小兵で非力だということの動かぬ証拠になる。敵の知り得ていない秘密を知られてしまうことになる。それは義経の名を汚すのみならず、平家軍を増長させ、戦を不利にするかもしれない。だからこそ、義経は危険をかえりみず、戦の最中に海に流してしまった弓を拾わなければならなかった。

平家物語では武者の弓矢や刀、身に着けている鎧甲が詳しく描写されている。それらがその人物の身分・年齢・腕力などの人となりを表すからである。お互い見知らぬ敵味方は身に着けるものを見て相手を判断していた。現代の読者である我々も、装束に注目して平家物語の登場人物たちをイメージしてみると、それぞれの特徴がより鮮明になるだろう。

那須与一は、濃紺染の生地で襟と袖に赤い錦で縁取りをした直垂に萌黄威（明るい緑色のひもで鎧の板を綴り合わせた

もの）の鎧である。十七歳で討たれた平敦盛は、白絹地に鶴の刺繍の直垂で萌黄匂（萌黄のグラデーシオン）の鎧である。若武者は萌黄の鎧であることが多い。七十歳を過ぎて戦をした源頼政は白絹の直垂に紺地に白く草模様を染めた皮で威した鎧の上品ないで立ち。平家方で剛の者といわれた平忠度は紺地の錦の直垂に黒の鎧というダークな色合いで力強さを感じさせる。

また、旭将軍といわれた源義仲の最期の装束は、赤地の錦の直垂に唐綾威の鎧、屋島合戦での源義経は、赤地の錦の直垂に紫裾濃（紫のグラデーシオン）の鎧である。錦は格の高い武士のためのもので、特に赤地のものは大将が身に着けることが多く、ぜいたくで華やかなものであったのだろう。

現代においても、忍者赤影、ウルトラマン、戦隊ものの○○レンジャーのリーダー、ガンダムのような専用ザクなど、ヒーローの色は赤であることが多く、この話題は生徒の興味を喚起できるのではないだろうか。

東野泰子

大阪府生まれ。論文に『奥義抄』から『僻案抄』へ「そが菊」注にみる院政期歌学の一様相」（『国語国文』）など。共著書に『八雲御抄の研究 正義部作法部（片桐洋一編）和泉書院』、『宴曲索引』（伊藤正義監修、和泉書院）などがある。

言語活動の充実を踏まえた 書写の授業開発

―「話す・聞く」「書く」と関連させて

はじめに

新学習指導要領の三年生に「身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと」が新たに加えられた。私たちの生活圏内には文字があふれているが、それがあまりにも身近なために、風景の一部としてとらえてしまいがちである。活字などを効果的に利用することに関心をもったり、手書き文字のよさを見直したりすることは、文字文化（言語文化）に関する認識を改めて形成する重要な活動だといえよう。

この実践では、校内や校外などで多くの活字（フォント）や手書きの文字を集め、分類してその効果を考え、今までの学習を総合した発表会を行うことで、生

名古屋市長良中学校 戸田 真

徒が効果的に文字を書き、文字を書く「楽しさ」を追求できると考えた。

また、全十一時間のうち、第5時までを書写の時間で、第6～11時を国語の時間で指導した。国語との関連では、ワークシートを利用した「書く」活動、調査した結果を発表し合う「話す・聞く」活動といった言語活動と積極的にリンクさせ、今までの書写の既習事項と国語科全般の学習を総合した学習に取り組みことで、「文字を書く喜び」「自己表現力」を大切にしながら、文字文化を理解することを目指した。

なお、この「身の回りの多様な文字に関心をもち、効果的に文字を書くこと」は三年生の内容であるが、休み中の課題も設定した関係で、時間的にゆとりのある二年生で指導した。

授業の実際

全体を詳説するスペースはないので、指導の要点と生徒の反応を中心に取り上げる。

第2・3時 文字探検と集約

生徒たちは、最初はめんどくさがっていたが、次第に「楽しさ」に変わり、次の課題や学習に期待をもてるように

指導の流れ

■指導計画（11時間＋課題）

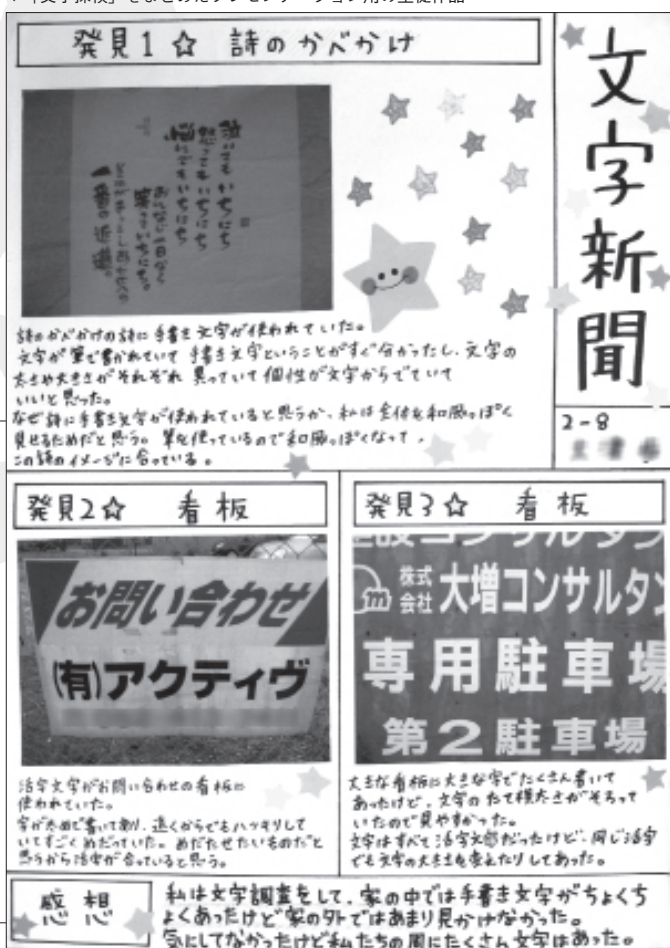
時	学習活動	指導上の留意点
1	【文字の意識調査】	・手書き文字や活字の特徴を踏まえ、使われている場所やその理由、手書き文字を使用する機会や必要性を考えさせる。
2	【校内文字探検】 校内から、多くの手書き文字や活字文字を見つける。	・身の回りの多様な文字に興味・関心をもたせる。 ・手書き文字と活字の使い分けを調べ、その特徴を理解させる。
3	【校外文字探検】 【文字探検の集約】 集めた文字を種類ごとにまとめる。	※ゴールデンウィーク課題 ・場面や目的などに応じて手書き文字と活字文字を使い分けていることを理解させる。 ・手書き文字と活字の効果について理解させる。
5・4	【文字の効果のまとめ】 プレゼンテーション形式にまとめる。	・調べたこと、わかったことなどをわかりやすく一枚の紙にまとめる。

なった。また、他国（異文化）の文字にも興味をもつようになり、手書き文字と活字それぞれの「意味」を感じ取ることができたという成果もあった。その反面、文字が日常生活にあまりにも密着しすぎていて、意識や興味がもてない生徒の姿も見られたのは今後の課題である。

第4・5時 文字の効果のまとめ

文字探検発表会でのプレゼンテーション資料づくりを行う。四つ切り画用紙を

▼「文字探検」をまとめたプレゼンテーション用の生徒作品



使い、新聞形式はじめ、視覚に訴えるようなさまざまな形式でまとめさせる。

▼生徒のコメントから

- ・文字のことを意識して見ていると、思ったより文字の形や種類が多く、色や大きさの工夫もあり楽しくなった。
- ・身の回りにはたくさんさんの文字があることがわかった。車や看板、地面など見渡す限りたくさんさんの文字があって、それら全てに興味があり、人々に何かを伝えていて、文字はともすすごいものだなと思った。

第6時 文字探検発表会のためのスピーチの仕方の学習

本時から第10時の発表会までを四段階に分け、それぞれワークシート(※)を利用した「書く」学習を取り入れた。教師のスピーチを聞き取る学習を通して、「正しく」「自分らしく」聞く方法を身に付けさせる。本時のワークシートでは、

- ①「へえー」「そうだったんだ」「新たな発見、関心・意欲・態度」
- ②「上手だな」「説得力があるな」「自分もまねしてみたいな」「わかりやすく論理的な説明技術」

いかということに気づいた。

・発表のとき、緊張して声が小さかったのもっと自分に自信をもちたいと思った。

・発表のとき、もっと自分らしい言葉で説明できるようにしたほうがよかったと思った。

第11時 学習の振り返り

▼生徒の反応

- ・自分が経験した書写の授業と全てが違って、とても印象に残った。
- ・書写の授業なのに、スピーチの仕方(話し方)が勉強できたことに驚いた。
- ・文字の発表会で級友のスピーチを聞いたとき、自分が校外文字探検で調べたときよりも、もっと興味・関心をもって「文字っておもしろいな」と思った。



③「とても先生らしいなあ」「その人らしさの発見と共感、人間的な想像力」

④「あれ」「どうしてかな」「もっと聞いてみたいな」「もっと深めるための疑問・質問」

⑤「こうしたほうがもっとよくなるな」「これからの学習に生かすための課題発見・批評する力」

といった観点に分けてメモをさせる。

第7・8時 発表会のための「組み立てメモ」「スピーチ原稿」

相手に「わかりやすく」「個性的に」伝えるための原稿を書くために、経験や感想などを整理させるワークシートを使った。

- ①文字について知っていること、大切にしていること
- ②そのことで何を伝えたいか
- ③それがよくわかるエピソードは「特徴」「思い出」「出会いのきっかけ」など
- ④モデルを示し、自分なりの組み立てを考えさせる

・外国の文字探検(調査)もしてみたいという意欲が湧いた。

・文字の歴史にも興味をもつことができた。

・小学校の書写の授業は、手本をただ写すだけでつまらなかったで、今回の学習も、最初は全然魅力を感じなかった。しかし、学習を積み重ねるうちに今までにない魅力を感じるようになった。普段あまり行く機会がない図書室に行き、興味のある本の中から文字を見つたり、校外文字探検で見つけた文字の種類ごとにまとめたり、文字の発表会の交流の場面で、級友の発表のよかったところや改善してほしいところを言い合ったり…など、これまでに経験したことがない「これって本当に書写の授業なの」という感覚になった。

■「組み立てメモ」のモデル

構成	ポイント	内容(簡単に)
はじめ	話題の提示	手書き文字・活字との出会い。
なか1	文字との出会い	校内・外文字探検のとき、〇〇で出会った。
なか2	エピソードやそのときの様子	手書き文字は、書いた人の気持ちを相手に伝えられることを知った。活字は、形が整っていて見やすいことを知った。
なか3	(二二)	手書き文字との出会いが今の自分の心を支えている。これからはもっと大切にしていきたい。
まとめ	思い・考え	今自分の心を支えている手書き文字との出会い。
むすび	今後の思い	
題名	思い・判断	

第9・10時 文字探検の発表会(プレゼンテーション形式)

▼生徒の反応

・交流のときに質問を受け、そこからいろいろな考え方を知ったので、さまざまな角度からものを見られるようになったと思った。

・校外文字探検のとき、お店の人などにインタビューをすればもっと文字の特徴などをつかむことができ、級友からの質問に答えることができたのではないかと。

一学期を振り返ってみて、今は「自分は成長したな」という自信をもっている。

3 おわりに

今回の実践全体の大きな成果の一つは、文字調査や集約などの活動を通じ、自分がどのように課題を解決していったらよいかという見通しをもつて、生徒が主体的に取り組むことができたということだ。また、この実践を終えたとき、生徒たちから「もっと字がうまくなりたい」「大人字(行書)が書けるようになりたい」という声が上がリ、文字に対する興味が膨らみ、書字への意欲が湧いた。これを受け、二学期では行書の特徴やルールなどの基礎・基本にもう一度取り組み、そこから日常生活への応用につながるような指導に取り組んでいきたいと考えている。

このように、これからの書写指導では、文字への興味・関心を大切にしながら、文字言語によるコミュニケーション・リテラシーの育成を目指す研究、実践を考えていく必要があるのではなからうか。



<http://www.mitsumura-tosho.co.jp/24ckyokasho/>

「平成24年度版中学校教科書のご案内」特設サイト

光村図書が発行している「国語」「書写」「英語」「美術」の平成24年度新版中学校教科書の内容を教科ごとにご紹介するサイトを開設しています。
動画を使って3分で教科書の魅力をご紹介しますコンテンツや、「年間指導計画資料」「新版教科書Q & A」など豊富なダウンロード資料も収録しています。



3分で分かる動画

これさえ見れば、新版教科書が丸ごと分かります！映像とナレーションで内容と魅力を3分でご紹介します。

豊富なダウンロード資料

新版教科書に対応した年間指導計画・評価計画資料など、ダウンロードしてすぐにご活用いただける資料も豊富。

ポイントは3つ+1

新版の特長を3つのポイント、プラス1で解説します。それぞれのボタンから、さらに詳しい内容をご覧いただけます。

平成24年度「言語教育振興財団」研究助成金一般公募

言語教育（国語教育・外国語教育等）の充実・発展を図るために、理論と実践の分野について優れた研究開発を行う団体または個人に対して助成します。

助成内容	①言語教育の内容・方法に関するもの（教育内容・方法部門） ②言語教育教材の質的向上に関するもの（教材部門） ③教育機器を利用した言語教育の在り方に関するもの（教育機器部門）
研究期間	平成24年4月～25年3月（原則1年間）
応募資格	言語教育（国語、英語、日本語等）に関して研究開発を行う教員及び教育開発を行う小学校・中学校・高等学校・大学・教育研究団体（学校の学年・教科単位を含む）
助成件数及び金額	助成件数は80件まで。助成金額は1件につき20万～50万円
応募方法・締め切り	・所定の申請用紙に記入の上、研究開発活動についての企画書または実施した実践報告書等の参考書類を添えて、平成23年12月22日（木）必着で、当財団事務局に郵送。 ・申請用紙を希望される方は、直接又は返信用封筒を同封の上、当財団事務局までお申し込みください。 ・この応募要項については、都道府県教育委員会等推薦の場合も同様に扱います。
決定・発表	当財団「選考委員会」にて選考を行い、選考結果を平成24年2月末までに通知。平成24年3月末に銀行振り込みで交付します。
問い合わせ先	財団法人言語教育振興財団 事務局 〒141-0021 東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 03-3493-7340 FAX 03-3493-2174 E-mail:gengo-k@star.ocn.ne.jp